

東京本館とつくば分館が所蔵する文書

東京本館



昭和46年開館
建 物 地上4階
地下2階(4層)
書 架 35km
閲覧者 約4,400名(年間)

つくば分館



平成10年開館
建 物 地上3階
書 架 37km
閲覧者 約170名(年間)

主に平成11年までに移管された各省文書、利用頻度が高い文書(内閣官房移管文書など)、内閣文庫を保存

主に平成11年以降の各省移管文書、民事判決原本・裁判文書等を保存

所蔵公文書の代表例

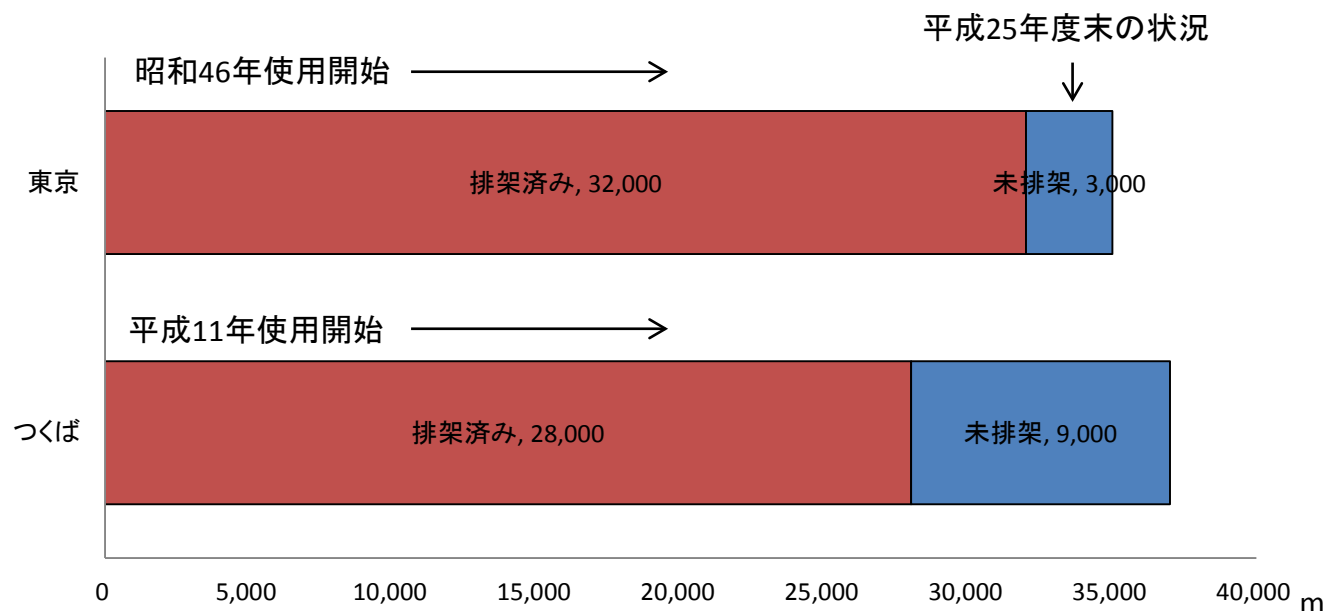
- 公文録等の明治政府の意思決定文書(総理府)
約55,000冊:慶應4年~昭和20年代
- 旧鉄道省文書(鉄道の許認可書類)(運輸省)
約4,700冊:明治19~昭和60年代
- 戦犯関係資料(裁判・赦免・遺族支援等)(法務省)
約7,800冊:昭和27~昭和33年
- 閣議・事務次官等会議資料(内閣官房)
約4,900冊:昭和21~58年
- 大学の設置認可等書類(文部省・文科省)
約10,900冊:大正12年~

- 閉鎖機関清算関係資料(財務省)
約135,400冊:大正~昭和40年代
 - 森林管理局文書(国有林野の管理・経営)(農水省)
約17,700冊:近世~平成10年代
 - 民事判決原本・裁判文書(最高裁判所等)
約41,800冊:明治9年~平成24年
- ⇒ 毎年度 約2万4千冊程度の移管を受け入れて保存

利用請求件数(平成24年度)
東京本館:2,928件
つくば分館:1,170件

書庫の使用状況について

東京：約35,000m中、約32,000mを使用（約91%）
つくば：約37,000m中、約28,000mを使用（約76%）



⇒ 平成31年度頃に満架に達する見込み。

【参考】国立国会図書館関西館(京都府)書庫の使用について
平成32年度に供用開始予定の書庫の一部を有償で使用の予定

諸外国における保存の状況

アメリカ 国立公文書記録管理院 National Archives and Records Administration



本館

- ・ワシントンD.C.(議事堂とホワイトハウスの間)に所在
- ・近隣には国立歴史博物館や自然史博物館、美術館等が立ち並ぶ。
- ・書庫面積:70,327㎡



新館

- ・メーランド州カレッジパークに所在
※本館との距離は10マイル
(車で30分程度)
- ・研究提携を結ぶ近隣のメーランド大学には、占領期の日本メディア資料を収集したプランゲ文庫がある。
- ・書庫面積:64,249㎡

- ・家系関係資料、アメリカンインディアン資料、第2次世界大戦前の軍事資料、立法府文書、裁判所資料等を保存
- ・2004年に独立宣言・合衆国憲法・権利章典を展示する展示室を整備

- ・20世紀以降の連邦政府各機関から移管された記録、地図・建築資料、ニクソン大統領関係資料、ケネディ暗殺関係資料、第2次世界大戦後の軍事資料、電子記録、映像・音声等のメディア資料、写真資料を保存

※このほか、全米17ヶ所に中間書庫の機能を担うレコードセンター、13ヶ所に管轄地域の連邦記録の収集、保存等を行う地域支部、13ヶ所の大統領図書館がある。

⇒総所蔵量約1,408kmの記録を保存

- 展示や教育普及機能は本館が担当し、新館は閲覧利用機能に特化
- ユーザー層や利用動態を意識しつつ、時代別・媒体別に保存する場所を選択

イギリス 国立公文書館 The National Archives

チャンスリーレイン館

- ・1900年代に建設
- ・1800年以前の記録を保存
- ・書架延長: 約30km
- ・ロンドン中心街に所在

1996年に閉鎖、移転

※1992年にエージェンシー化

キュー本館



- ・ロンドン郊外(中心街から10マイル・車で30分程度)
- ・当初は1800年以降の記録を保存
- ・旧館(1978年築)及び新館(1996年築)を合わせて施設規模は65,200m²。

現在、合計で約200kmの資料を所蔵。

※一部民間の施設を借り上げて書庫として利用 P

ヘイズ中間保管庫・記録センター

- ・ロンドンから列車で2時間程度の郊外に所在
- ・書架延長: 約34万7千m



業務停止

2008年閉鎖、キューを改築して機能を集中

ファミリー・レコード・センター

- ・ロンドン中心街に所在
- ・国勢調査記録、遺言状その他の個人に関する記録を管理
- ・統計局と共同で運営

- 連邦政府及びイングランド、ウェールズの各政府機関の公文書、王室記録、最高裁判所の記録、一部の裁判所の永年保存資料、私文書を保存
- 書庫機能のほか、各種の機能をキューの本館に集約化(現在は公共セクター情報局、印刷庁も統合)

※議会については別途議会公文書館がある。また、スコットランド国立公文書館 National Archives of Scotland(エジンバラ)、北アイルランド公記録管理庁 Public Record Office of Northern Ireland(ベルファスト)は別組織

パリ館



- ・パリ・マレ地区に点在 (1790年設立・1808年開館)
 - ・フランス革命(1790年)以前の文書、パリ市公証人記録等を保存(約55km)
- ⇒主に、保存する記録の利用、調査研究、展示機能に特化

閲覧室(パリ CARAN)



- ・パリの郊外(約10km)、サンドニに所在
 - ・フランス革命(1790年)以降の行政文書及び民間部門の記録を保存(約200km)
- ⇒保存する記録の利用、調査研究、展示機能のほか、組織管理機能を集約

フォンテーヌブロー館

- ・パリ郊外(列車で40分程度)に所在 (1969年に設置・1978年開館)
 - ・電子文書、視聴覚資料のほか、建築家資料(紙媒体)等を保存(約90km)
- ⇒主に、保存する記録の利用、調査研究機能に特化

3館の総延長約600km中、約350kmを使用中

ピエールフィット館



2013年1月開館
施設規模
土地面積 43,960㎡
収蔵面積 62,048㎡
一般開放スペース 5,400㎡
(うち閲覧室1,400㎡)
収蔵棚の長さ延べ 360Km

- いずれの施設もパリ市内又はその近郊に立地
- 発生源を同じくする所蔵資料のまとめり毎に3館で保存と利用、調査研究を実施
- 展示機能はパリ館とピエールフィット館で分担

※このほか、国立労働文書館(1993年ルーベに設置。企業・社会経済団体の活動、労働関係記録を保存)、国立海外文書館(1966年エクス・プロバンスに設置。フランス植民地関係記録を保存)、マイクロフィルムセンター(1973年エスペリアンに設置)に加え、国防省公文書館(ヴァンセンヌ)、外務省公文書館(ケドセ)がある。

- 連邦公文書館の施設は全国9ヶ所に所在(所蔵資料の書架延長は約305km)
- 総務部門とサービス管理部門は原則として本部・本館へ集約
- 記録は現地保存の原則を維持して保存・提供
- 特殊な利用目的を有する記録は集約して供用

旧西ドイツ

① 連邦公文書館本館(コブレンツ, ラインラント＝プファルツ州)

- ・1952年設立(1960年代に中間書庫を設置)、ボンから約80km
- ・総務局・業務局を設置
- ・ドイツ連邦共和国の記録のほか、フィルム資料を保存
- ・書庫スペースは15,000m²

② ボン地区中間書庫

- (ザンクト＝アウグスチン＝ハンゲラー, ノルライン＝ヴェストファーレン州)
- ・ボンの政府機関の中間書庫として本館から分置(1971年)、ボンから約8km
- ・1979年に倉庫1棟増築(書架延長43km)
- ※現在はボンに設置の連邦省が利用機関となっている。
- ・使用書架は約39km、3,254件の貸出実績(2012年)

③ 軍事公文書館(フライブルク, バーデン＝ヴュルテンベルク州)

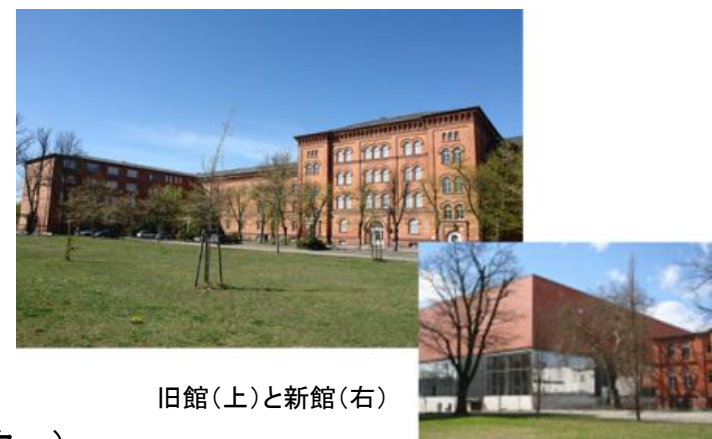
- ・ボンから約400km
- ・1867年以降のプロシア軍、北ドイツ連邦海軍、皇帝海軍、防衛舞台、義勇軍、ドイツ帝国防衛軍、武装親衛隊、ドイツ連合軍奉仕作業班、国家人民軍及び国境警備隊、連邦国防省及び連邦国防軍の資料を保存し、利用提供
- ・軍関係資料の中間書庫としても機能



ベルリン地区(旧東ドイツ)

④ 連邦公文書館ベルリン本部(リヒターフェルデ,ベルリン)

- ・ベルリン中心街から13km程度
- ・総務局を設置
- ・ドイツ帝国時代の記録、ドイツ民主共和国の記録を保存
- ・2009年に書庫を新築し、翌2010年に所蔵資料125km分を集約



旧館(上)と新館(右)

⑤ ベルリン地区中間書庫(ホッペガルテン,ベルリン)

- ・1991年に旧東ドイツ文書保存庫として設置(国家安全省の旧暗号センター)、ベルリン中心街から24km程度
- ・1997年、保存施設を増築(書架延長65km)
※現在はベルリンに設置の連邦省が利用機関となっている。
- ・使用書架は約39km、5,560件の貸出実績(2012年)
- ・2001年、新たに脱酸施設の稼動開始。2005年、フィルム加工・保存用の新施設完成

⑥ 映画資料部(ヴィルヘルムスハーゲン,ベルリン)

- ・ベルリン中心街から33km程度

その他—特殊な利用目的を有する記録

○ 戦時被害負担調整記録センター(バイロイト,バイエルン州)

- ・第二次世界大戦中の追放・強制移住、通貨統一などで生じた被害・損害を調整する負担調整法に関する施設
- ・主に追放・強制移住に関する記録を保存(書架延長46km)。
- ・旧バイロイト市立病院の建物を1995年から改築・増築(ベルリンから約350km)

○ ドイツ史における自由独立運動記念館(ラシュタット,バーテン=ヴュルテンベルク州)

- ・1974年、当時のハイネマン大統領の提唱により、ラシュタット宮殿内に設けられた。
- ・この宮殿は1849年にバーテンの兵士がプロシア軍に対して蜂起した歴史的な場所(ベルリンから約700km)

○ ナチス犯罪解明中央機関(ルートヴィヒスブルク,バーテン=ヴュルテンベルク州)

- ・ナチスによる犯罪の情報収集と捜査を行う。
- ・1958年に設置され、1966年に旧女子監獄の現在の建物に移転(ベルリンから約620km)